

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	独語運用演習		
英文授業科目名	Intermediate Practical German		
開講年度	2004年度	開講年次	2年次
開講学期	4学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化演習科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	宇田川 尚人（学内連絡教官 坂本 真樹）		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
naoto_u@tka.att.ne.jp	

【主題および達成目標】
<p>中級ドイツ語を、主に読解を中心に総合的に学習する。 最終目標は、少し難解なテキストでも辞書を使えば正確に読めるようにすること、および独検3級レベルの語学力をつけること</p>

【前もって履修しておくべき科目】
1年次ドイツ語

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
3学期開設のドイツ語科目のいずれか

【教科書等】
<p>特定の教科書は使用しない。様々なテキストをコピーで配布する。『VITA（生きること）』（朝日出版社）、『環境問題シンポジウム』（郁文堂）、Paul Celan:Gedichteなど</p>

電気通信大学 平成16年度シラバス

【授業内容とその進め方】

授業内容：

初めの数回で中級ドイツ語の基本文法事項をちゃんと理解しているかどうかを復習する。その後毎回テキストを講読してゆくが、特に長文読解では、漠然と訳すのではなく構文・構造を正しく理解できているか、内容を正しく読みとれているかをチェックしてゆく。

内容としてはこの授業では、「生命」とは何か、「心」とは何かという問題を、心理学・哲学・倫理学の<境界>境域にあるドイツ語のテキストを使用して、考察してゆく。(また授業では、これらのテキスト読解に合わせて、上述の問題に対する解説及び意見交換も適宜行う。)

授業の進め方等：

いくつかのテキストを用いる予定だが、使用テキストは、参加学生のドイツ語習得レベルにもよるので、学生と相談の上、段階的に高度のものへレベルアップしてゆく予定である。必要な文法解説事項のプリントは配布する。毎回の授業に対して予習してあることを前提とする。又学期末試験を行うかどうかは学生と相談の上決定する。きちんと授業に出席し積極的・自発的に参加することが望まれる。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法：平常点+テストの結果点+出席率によって総合的(1:2:1)に評価する。

評価基準：2/3以上の出席率と50点以上の試験の成績を最低基準とする。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、授業後等に事前にアポイントを取ることが望ましい。

【学生へのメッセージ】

積極的に授業に参加し、わからない時はどこがどのようにわからないかを直ちに述べること。

【その他】

特になし